



愛知陸協広報

第41号

平成29年3月31日発行

一般財団法人 愛知陸上競技協会

〒460-0012 名古屋市中区千代田二丁目19番16号千代田ビル7F

電話 (052) 249-4363 ファックス (052) 249-4366

ホームページ: url <http://www.aichi-rk.jp/>

平成28年度を振り返って

専務理事 稲垣 裕

平成28年度は緊張の連続となる全国・地域規模大会が多く開催された年でした。まず、6月18日に東海国立大学陸上競技大会(刈谷)がありました。その翌週24～26日にリオデジャネイロオリンピック最終選考会となった日本陸上競技選手権大会は、記念すべき100回目をパロマ瑞穂スタジアムで迎えることができました。大会運営では、愛知陸上競技協会として前回の新潟大会への下見から、リハーサル大会などオリンピック選手選考会にふさわしい大会となるよう準備をしてきました。日本新記録も誕生し、この3日間は小雨の中6万人を超える入場者数があり、観客席が満員になるほどの大盛況でした。ご尽力いただきました全ての関係者の皆様方に改めてお礼申し上げます。

日本陸上競技選手権大会終了後も、パロマ瑞穂スタジアムで8月には東海中学総体、全国高専陸上、東海選手権、10月には日本ジュニア・ユース、東海高校新人と県内の各競技会を挟みながら大きな大会が続けて開催されました。また、2月末に犬山ハーフマラソン、ロンドンで開かれる世界選手権選考会でもある名古屋ウィメンズマラソンが3月に行なわれるなど、この1年を通して競技役員や補助員としてご協力いただいた方々は緊張を強いられた年だったと思います。

今年度は競技会の順番がイレギュラーだったため準備が大変でしたが、それぞれの大会を無事に終えた後は充実感に溢れていました。このようなまたと無い機会に競技運営において携わることができ、光栄に思います。

一方、これらの大会を間近で観戦し、刺激を受けた若いアスリートの皆さんがそれぞれの競技会などに夢を抱いて臨んでくれたことと思います。多くの競技会において来年につながる記録、力走を見ることができました。平成29年度における各選手の一層の活躍が大いに期待されます。

駅伝王国 伝統をつなぐ

1月に行なわれた都道府県対抗男子・女子駅伝において、愛知は男子が3位、女子が5位に入賞しました。昨年アベック優勝を果たしたメンバーのうち、今年も出場したのは男女合わせてたったの一人でした。入賞が危ぶまれる中で、男女とも伝統を守り抜きました。女子は8年連続入賞の偉業達成です。

実業団においても、トヨタ自動車がニューイヤー駅伝で優勝こそがしたものの2位に入りました。まさに、駅伝王国の面目躍如といったところです。

来シーズンは、入賞をのがしている実業団の女子、全国高校駅伝の男子、中学校の男子・女子を中心に全てのカテゴリーで更なる高みをめざしてほしいものです。このことが、都道府県対抗駅伝を頂点とする駅伝王国愛知のピラミッドを揺るぎないものにするはずですから。

(写真提供: 中日新聞社)

男子駅伝 3区
7人抜きの山口選手女子駅伝 9区
5位でゴールする驚見選手

専門委員会報告

総務委員会

2017年度の登録が3月1日から始まりました。

公認の陸上競技会等に審判員・競技者として参加するためには、愛知陸協に登録し、日本陸上競技連盟の登録会員にならなければなりません。審判員資格を持っている方で登録をされていない方は、登録をお願いします。登録は「登録要項」または、ホームページを参照して行なってください。

なお、不明な点は、事務局（電話 052-249-4363）までご連絡ください。

また、年度の登録申請期間は、毎年3月1日～11月30日（高校は10月31日）までです。

登録担当者・申請先を掲載します（転勤等で、担当者の所属先が変わる場合があります）。

一般団体・個人

名古屋	赤司 学	市立工芸高等学校
尾張	門脇 良佑	尾北高等学校
西三河	山村 晃泰	刈谷高等学校
東三河	山本 誠司	豊丘高等学校

大学生

全 県	愛知陸協事務局	052-249-4363
-----	---------	--------------

高校生

名古屋北	新美 準人	菊華高等学校
名古屋南	小田垣充雅	名古屋女子大学高等学校
尾張	浜田 倫昌	津島北高等学校
知 多	成田 稔	武豊高等学校
西三河	中野 哲也	岩津高等学校
東三河	中村 昭広	豊橋工業高等学校

中学生（学校・クラブ・個人）

名古屋	釜下 隼亮	日進西中学校
尾張	酒井 達哉	宮田中学校
西三河	細井 太郎	六ツ美北中学校
東三河	岡田 淳史	南陽中学校

小学生友の会

名古屋	榊原 聖也	森岡小学校
尾張	西村 嘉二	一宮市小赤見戊亥26
西三河	小林 良博	安城東部小学校
東三河	手嶋 修次	NPO法人蒲郡アスリートコミュニケーションズ

（水野 隆夫）

競技委員会

新しいシーズンの始まりに当たって

2016年度には、日本選手権を始め、全国高専陸上競技大会、東海中学総体、東海選手権、ジュニア・ユース選手権、東海高校新人等があり、最後に名古屋ウィメンズマラソンで締めくくりました。多くの競技役員の方々にご協力いただき、無事終えることができました。ありがとうございました。

2017年度の競技会もいよいよ始まります。ご協力宜しくお願いします。各競技会に関しては要覧に掲載していま

すが、変更がある場合もあります。申し込み等は、陸協ホームページで大会要項や競技注意事項をよく確認して間違いのないようにしてください。

愛知陸上競技協会では、協会主催の大会において新ルールの適用を原則としています。しかし一部の大会では特別なルールを適用する事もあるので、大会要項や競技注意事項で確認をしてください。

一年を通して、愛知では国際的、全国的な大会や東海大会から小学生の競技会まで幅広く陸上競技が行なわれています。多くの競技者が出場し、それを支える競技役員、補助員によって競技が運営されています。それぞれが協力し合って、競技者がよい環境で競技できるようにご協力をお願いします。（榊原 茂）

施設・用器具委員会

2016年度検定関係

今年度は検定が連続する年でした。犬山ハーフマラソン、マラソンフェスティバルナゴヤ・愛知の準備では検定日程調整で関係者にご協力いただきまして大変ありがとうございました。今回は各競技場のポイント写真を中心に紹介します。

検定場所	期 日	日本陸連派遣者
(1) 犬山ハーフマラソンコース一部変更	12/10(土)	青木検定員と平川・南技術役員
(2) 豊川市3種陸上競技場	2/11(土)	青木検定員と南技術役員
(3) 白谷海浜公園4種陸上競技場	2/24(金)	青木検定員と平川技術役員
(4) 一宮総合運動場3種陸上競技場	3/17(金)	青木検定員と平川技術役員
(5) 知多運動公園2種陸上競技場	3/18(土) 19(日)	日本陸連本部米岡検定員と青木検定員と南技術役員
(6) 豊田運動公園2種陸上競技場	3/30(木) 31(金)	日本陸連本部山口検定員と青木検定員と南技術役員

<主な特徴>

- (1) 内田防災公園手前の道路上にフィニッシュ地点を設置するため、折り返し地点を40m延長（往復で80m）して、それ以後の各ポイントを変更しました。



犬山ハーフ(フィニッシュ地点計測)

- (2) 新設から5年目で2回目の検定で、全体的に良く整備されていました。用器具の整備・整頓をお願いしました。アウトレーンに長距離用の周回コースのある公認陸上競技場として特色を生かし、有効活用も依頼しました。



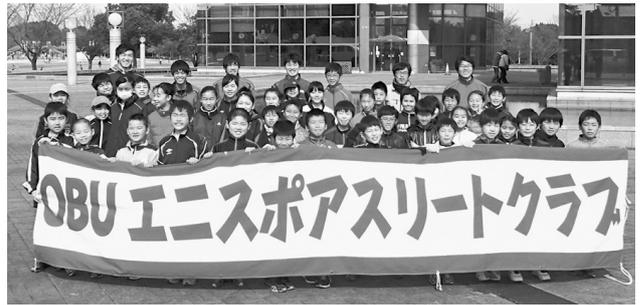
豊川3種(長距離専用の登り下り坂)

- (3) 走路、助走路の色がブルーで、愛知では2カ所目です。各関係者の熱意で、4種の陸上競技場に、県下で初めて最新の写真判定装置が入りました。今後、公認記録会で活用されて好記録が出る事が期待されます。
- (4) 2019年までが公認期間ですが、「一部を改修しないと2017年度の公認陸上競技大会が開催できない」と検

クラブ紹介③⑤ OBU エニスポ AC

OBU エニスポアスリートクラブは、大府市総合型地域スポーツクラブ、通称“OBU エニスポ”の教室の一つで、3年前市民の要望の声から立ち上がった教室です。エニスポとは、いつでも・どこでも・だれでも・いつまでもスポーツ・文化・レクリエーションを楽しめるという意味を持ちます。

現在のOBU エニスポ ACは小学生100人超、高校生以上の一般チームは10人程で活動しています。活動日は毎週土・日曜日で、大府市内にある「あいち健康の森公園」又は至学館大学のグラウンドを借りて練習をしています。コーチは専任5名と一般チームの選手達が指導に当たっています。とにかく楽しく活動することを心掛けています。陸上競技の活動ではありますが、一人ひとり目的は違います。体力作り、学校の運動会や他の競技での活躍、もちろん陸上競技の大会で上位をめざすなど様々です。色々な目的がある中でも指導の方針としては、頑張れる気持ちを持たせること、小学生のうちに怪我をさせず次のステージに送り出すことを全コーチが理解して指導をしています。それはOBU エニスポ ACを強いチームにするための指導ではなく、OBU エニスポ AC出身者が将来活躍できるため



集合したエニスポクラブ員

の指導でありたいと思っています。練習メニューは基本動作の習得、身体を大きく使う動作などです。あと、毎回参加者全員でおにごっこを必ず行なっています。保護者の方も参加して色々な種類のおにごっこを5分間、4セット行ない、みんなで盛り上がっています。

これからも、色々な工夫で大府市の陸上競技を盛んにしていきたいと思ひますし、将来世界陸上やオリンピックに出場できる選手が育つことを楽しみにしています。

(連絡先) 斎藤 080-1582-0827 まで

(塩澤 勝彦)

定員として現地指導で判断させていただきました。尾張陸上競技協会関係者の努力により、所有者の愛知県にご理解を得て、一部改修の予算をつけていただきました。



一宮 3種(走幅跳踏切不具合)



知多 2種(ライン引き直し)



豊田 2種(エンボス仕上げ)

(青木 実)

小川真一郎氏、尾張陸協から野口一昭氏、西村嘉二氏、西三河陸協から松橋政人氏の4名の方が陸連より承認されました。またA級にも10名の方が昇格されました。おめでとうございます。今後ともご活躍を期待いたします。

(小森 好治)

選手強化委員会

2017 都道府県対抗男女駅伝報告

平成29年1月15日(日)に女子駅伝(京都)、22日(日)に男子駅伝(広島)が行なわれました。昨年アベック優勝の偉業を成し遂げたチーム愛知。県民の期待はアベック連覇であったことは、容易に想像できました。しかしこの駅伝については、メンバーのほとんどが新しくなるチームで、昨年と今年では別のチームだという事情は知られていないのが現状でした。昨年の優勝経験者は、男女合わせてたったの1名。エントリー段階でのランキングも、失敗なく襷を繋いで入賞できるかどうかという位置でした。今年のチーム愛知の合言葉はチャンピオンチームとして恥ずかしくない走りをし、「全員駅伝で8位入賞」でした。個人で区間賞・区間新記録を狙える選手もいましたが、スタッフからの指示は「チームのための走り」「流れを崩さない走り」でした。各選手ともその指示を忠実に守り、本当に素晴らしいチームワークを披露してくれました。愛知県は強いと、各県スタッフ・沿道の駅伝ファンから声が聞こえるほどの印象も与えたようでした。連覇はできませんでしたが、王者としての走りは十分にできたのではないのでしょうか。そして、男女アベック入賞というこれもまた高い評価を与えることができる結果を残し、来年につながる2日間となりました。

女子第35回・男子第22回チーム愛知の選手および成績は次のとおりです。

審判委員会

平成28年度の愛知陸上競技協会の行事も、各地区の審判伝達講習会を最後に無事終えることができました。特に本年度は日本選手権を始め全国大会・地区大会と大会が重なり審判員の皆様には連日、審判業務にご協力いただき感謝しています。ありがとうございました。

とくに名古屋ウィメンズマラソンにつきましては、452名と多くの陸協審判員の協力を頂き盛況裏に終えることができました。

来年度も、従来のジュニア・ユース選手権のU18・U20日本選手権(10月20～22日)、名古屋ウィメンズマラソン(3月11日)と大きな大会が引き続き開催されます。是非ともご都合をつけてご協力くださるようお願いいたします。

今年も4月1日付でS級昇給者が名古屋地区陸協から

女子チーム 第5位 2時間18分34秒

区間	氏名(所属)	記録	区間順位
1区	猿見田裕香(豊川高)	19分47秒	10位
2区	吉川 侑美(資生堂) F	12分52秒	13位
3区	野津 里実(宮田中)	9分47秒	15位
4区	山本 彩乃(小島プレス)	13分21秒	5位
5区	松井 優実(豊川高)	13分44秒	8位
6区	杉浦穂乃加(中京大)	13分15秒	5位
7区	藤中 佑美(光ヶ丘女子高)	12分37秒	2位
8区	松原 亜純(新川中)	10分33秒	17位
9区	鷺見 梓沙(ユバサールエンターテインメント) F	32分38秒	7位

F:ふるさと選手



8年連続入賞の女子チーム

男子チーム 第3位 2時間20分31秒

区間	氏名(所属)	記録	区間順位
1区	蝦夷森章太(愛知高)	20分39秒	19位
2区	服部 凱杏(千種中)	8分31秒	2位
3区	山口 浩勢(愛三工業)	24分24秒	2位
4区	関口 雄大(豊川高)	14分48秒	15位
5区	梶川 由稀(惟信高)	25分27秒	24位
6区	馬場勇一郎(上郷中)	8分41秒	2位
7区	神野 大地(コニカミノルタ) F	38分01秒	3位

F:ふるさと選手



3位入賞を果たした男子チーム

本年度も両大会において、愛知県人会の皆様から大会期間中たくさんの激励とご厚情を頂きました。愛知陸協からも沿道・スタンドから熱烈な応援を頂き、選手・スタッフ共々感激いたしております。

大会関係各位、ご配慮頂いた所属チームの皆様方、愛知陸協応援団の皆様には、深く感謝するとともにこの場をお借りしてお礼申し上げます。来年度再度アベック優勝をめざし、一層の結束と強化を推進して参ります。今後ともご理解・ご協力をお願い申し上げます。(明星 光信)

記録・情報処理委員会

2016年に樹立した新記録等

2016年は中学男子800mで、馬場 勇一郎選手(上郷中)の日本新記録(1'52"43)を含めて、県・ジュニア・高校・中学で以下の数の県新記録(小学生は最高)が樹立されました。

<対象期間 2016年(平成28年)1月1日~12月31日>

愛知新記録(男子)	8種目延べ23種目
愛知新記録(女子)	6種目延べ8種目
愛知ジュニア新記録(男子)	3種目延べ5種目
愛知ジュニア新記録(女子)	3種目延べ6種目
愛知ジュニアタイ記録(女子)	1種目
愛知高校新記録(男子)	5種目延べ7種目
愛知高校新記録(女子)	7種目延べ19種目
愛知中学新記録(男子)	4種目延べ22種目
愛知中学新記録(女子)	3種目延べ8種目
愛知中学タイ記録(女子)	1種目
愛知小学生最高記録(男子)	4種目延べ6種目
愛知小学生タイ記録(男子)	1種目
愛知小学生最高記録(女子)	8種目延べ22種目

○2016年に更新された記録

(紙面の関係で各種目の最高記録のみ掲載します)

一般男子

100km	6.40.37	高田 由基(愛知陸協)	
		[サロマ100kmウルトラ(北見)]	6.26]
5000mW	19.10.25	西塔 拓己(愛知製鋼)	
		[中部実業団選手権(多治見)]	10.15]
10000mW	39.57.41	山田 康太(順天堂大)	
		[しらこぼと長距離(越谷)]	11.19]
5kmW	19.33	西塔 拓己(愛知製鋼)	
		[日本選手権20kmW途中(六甲)]	2.21]
10kmW	39.17	西塔 拓己(愛知製鋼)	
		[日本選手権20kmW途中(六甲)]	2.21]
20kmW	1.19.44	西塔 拓己(愛知製鋼)	
		[日本選手権20kmW(六甲)]	2.21]
円盤投	57.55	湯上 剛輝(トヨタ自動車)	
		[東海選手権(瑞穂)]	8.28]
やり投	79.59	ディーン元気(ミズノ)	
		[織田記念国際(広島広域)]	4.29]

一般女子

400m	53.76	檜山 楓(至学館大)	
		[日本選手権(瑞穂)]	6.25]
5000m	15.18.11	横江 里沙(豊田自動織機)	
		[ディスタンスチャレンジ③(網走)]	7.11]

100km	7.47.06	兼松 藍子 (Run up)		中学男子		
		[サロマ100kmウルトラ(北見)	6.28]	800m	1.52.43	馬場 勇一郎 (上郷)
100mH	13.50	小林 沙矢香 (愛知教育大)				[愛知中学総体 (瑞穂) 7.27]
		[日本学生対抗 (熊谷)	9.4]	1500m	3.54.49	服部 凱杏 (千種)
3000mSC	10.00.40	向井 智香 (名城大)				[全日本中学 (松本) 8.24]
		[日本選抜和歌山 (紀三井寺)	5.1]	3000m	8.25.64	服部 凱杏 (千種)
4×100mR	(単) 45.78	中京大中京高				[静岡県長距離強化 (小笠山) 10.15]
		(白田 菜々美・久野 なつ・澤井 萌奈・長谷川 愛樹)		円盤投	41.29	小島 一世 (富士)
		[全国高校総体 (岡山) 7.31]				[ジュニアオリンピック (日産スタジアム) 10.29]
ジュニア男子				ジャベリック	71.44	堤 洸太郎 (平針)
400m	46.67	小久保 友裕 (桜丘高)				[愛知ジュニアオリンピック (瑞穂) 9.11]
		[全国高校総体 (岡山) 7.29]		中学女子		
110mJH	13.94	八代 貢輝 (名古屋)		100m	11.87	高須 鮎香 (岡崎城北)
		[日本ジュニア選手権 (瑞穂) 10.21]				[全日本中学選手権 (松本) 8.24]
砲丸投	16.58	白藤 聖陽 (安城学園)		4×100mR	(単) 48.32	甲山
		[全国高校総体 (岡山) 7.31]				(鳥居 芽生・永井 絵理香・田中 海来・谷口 琴音)
ジュニア女子						[全日本中学選手権 (松本) 8.24]
3000mSC	10.00.40	向井 智香 (名城大)		棒高跳	3.00	浦津 ななの (東浦東部)
		[日本選抜和歌山 (紀三井寺) 5.1]				[愛知中学通信 OP (瑞穂) 7.22]
4×100mR	45.78	中京大中京高		四種競技	2800	木村 加乃 (鷹来)
		(白田 菜々美・久野 なつ・澤井 萌奈・長谷川 愛樹)				[全日本中学選手権 (松本) 8.23]
		[全国高校総体 (岡山) 7.31]		ジャベリック	53.75	田中 友梨 (藤森)
棒高跳	3.65	高田 彩佳 (岡崎城西高)				[愛知ジュニアオリンピック (瑞穂) 9.11]
		[日本ジュニア選手権 (瑞穂) 10.21]		小学生男子		
高校男子				1000m	2.49.91	吉居 駿恭 (田原陸上クラブ)
400m	46.67	小久保 友裕 (桜丘)				[チャレンジ記録会茅野 (茅野) 3.13]
		[全国高校総体 (岡山) 7.29]		6年走高跳	1.55	川口 遙己 (JAC武豊)
110mH	14.17	八代 貢輝 (名古屋)				[県小学生選手権 (知多) 11.3]
		[愛知選手権 (瑞穂) 7.17]		4年ジャベリックボール投		
110mJH	13.94	八代 貢輝 (名古屋)			50.44	鈴木 琥太郎 (TSM)
		[日本ジュニア選手権 (瑞穂) 10.21]				[県小学生選手権 (知多) 11.3]
5kmW	20.39	鈴木 智大 (明和)		5年ジャベリックボール投		
		[日本ジュニア選抜10kmW途中 (六甲) 2.21]			54.19	渡辺 陸 (JAC武豊)
砲丸投	16.58	白藤 聖陽 (安城学園)				[県小学生選手権 (知多) 11.3]
		[全国高校総体 (岡山) 7.31]		6年ジャベリックボール投		
高校女子					59.13	河合 大地 (JACあつみ)
2000mSC	6.51.95	後藤 梨奈 (岡崎城西)				[県小学生選手権 (知多) 11.3]
		[全国高校選抜 (長居第二) 8.28]		小学生女子		
3000mSC	10.39.03	後藤 梨奈 (岡崎城西)		100m	12.73	土居 幸愛 (岡崎 JAC)
		[愛知レディース (瑞穂) 7.2]				[県小学生選手権 (知多) 11.3]
4×100mR	45.78	中京大中京		5年80mH	12.77	田島 七里香 (TSM)
		(白田 菜々美・久野 なつ・澤井 萌奈・長谷川 愛樹)				[県小学生選手権 (知多) 11.3]
		[全国高校総体 (岡山) 7.31]		6年80mH	12.38	中西 百萌佳 (TSM)
走高跳	1.81	浅井 さくら (岡崎城西)				[県小学生選手権 (知多) 11.3]
		[全国高校総体 (岡山) 7.30]		4×100mR	50.53	岡崎 JAC
棒高跳	3.65	高田 彩佳 (岡崎城西)				(藤井 鈴奈・土居 心愛・藤江 美空・北田 野々花)
		[日本ジュニア選手権 (瑞穂) 10.21]				[日本ユース選手権招待 (瑞穂) 10.22]
三段跳	12.29	糟谷 友里 (名古屋商)		5年走幅跳	4.60	武井 葉夏 (なごや陸上ク)
		[愛知選手権 (瑞穂) 7.17]				[県小学生選手権 (知多) 11.3]
やり投	50.28	石本 瞳 (名古屋大谷)		4年ジャベリックボール投		
		[東海高校総体 (長良川) 6.19]			38.49	中村 文香 (TSM)
						[県小学生選手権 (知多) 11.3]
				5年ジャベリックボール投		
					43.72	木村 優星 (知立ジュニア)

学校訪問③① 岩津中学校 今年度県中学駅伝女子の部愛知県代表

今年度、県の中学駅伝の女子の部で優勝し、全国大会出場を果たした岩津中学校を訪問しました。岡崎市内の中学校では多くの学校が正規の部活動とは別に、希望者を募って駅伝部を作っています。岩津中学校もその一つです。陸上部員が中心メンバーとなってはいますが、通常の部活動が終わってからの合同練習となります。冬場などは早くに暗くなってしまいますが、仮設の照明装置を使ってトレーニングを積み重ねているのだそうです。同じように駅伝部を作って活動している岡崎市内の中学校ばかりでなく県内全ての中学校の上に立つ成績を残したからには、必ず強さの秘訣があるはず。その秘訣を探るべく取材をしました。



本練習前のウォーミングアップ 始まりました。駅伝部顧問の太田周作先生にお聞きしたところ、合同練習の前に第一次のウォームアップを生徒たちが自主的に行なっているとのことでした。早いグループはその日、1時15分ぐらいには既に開始していたのだそうです。こうした事前準備をしっかり行なうことで、きつい内容の本練習もこなせるし故障も防ぐことができると太田先生はおっしゃっていました。先生によればいつもこんな感じで始まるとのことでしたが、部員たちにも先生の教えが浸透しているのでしょうか。

二つめは、生徒一人ひとりに対する細やかな目配りです。この点については二つの内容があります。一つは、能力に応じた練習メニューの設定です。たとえば男子では、SSS-SS-S-A1-A2-B1-B2-C1-C2の9グループに分けられています。1年生から3年生まで発達段階に差がありますし個々の能力差もありますので、理にかなったやり方と言えます。それに選手個々に調子の波もあります。太田先生は、記録の伸び具合や調子の善し悪しを見計らって、グループの選手の入替えを随時行なっているとおっしゃっていました。200mトラックで練習が行なわれているのですが、男子のSSSグループには1周48秒で6000m + 1周37~38秒で600m × 2、B1のグループには1周50秒で3000m + 1周41~42秒で400m × 2、女子のSSSグループには1周48秒で5000m + 1周38~39秒で600m × 2、B1のグループには1周52秒で3000m + 1周42~43秒で400m × 2といったように能力に応じた練習メニューが与えられていました。設定タイムをきちっと守って距離を踏むことの指示が徹底されているのか、マネージャー役の女子生徒が読み上げるラップタイムが設定どおりに守られている時には「ナイススペース」と部員たちは声を掛け合っていました。そして全部の距離を設定どおりに走り切れたグループ（と言ってもきめ細かくタイム設定されていますので、どのグループも設定どおりに終えています）は、最後にマネージャーとハイタッチをして練習を終えていました。ハイタッチをしている時の部員たちの明るい表情が私には印象的でした。達成感を味わっているのでしょうかねと太田先生に話しかけてみると、先生も達成感を大事にしていますとおっしゃっていました。もう一つは、練習日誌です。毎日部員たちが練習日誌を提出し、コーチとして関わっている卒業生の大学生の手も借りながら練習日誌を通して部員たちと細やかなコミュニケーション、意思疎通が行なわれています。練習日誌を通して部員の把握ができますし、部員たちの顧問の先生に対する信頼感も増してきます。毎日毎日のチェックは大変な労力だと思えますが、このやりとりが大きな力を発揮していることは間違いのないところでしょう。



朱が入った練習日誌

三つめは、入念なクールダウンです。ストレッチ体操にマッサージ、水道の水でアイシングといったことが20分近くの時間をかけて行なわれていました。練習内容が厳しいものであればあるほど、クールダウンを入念に行なわなければ故障を招いてしまいます。太田先生はこの点に十分配慮されており、継続性を大事にされているのだらうと思いました。部員たちにもこのことが十分に意識されているのでしょうか。形だけというのではなく、クールダウンにも真剣に取り組んでいるという印象を持ちました。

最後に、太田先生ご自身のことに触れておきます。太田先生は陸上競技が専門の先生ではなく、サッカーが専門の先生です。駅伝部の顧問になられてから、母校の大学の先生に助言を求めたりして陸上競技のことについては学んでこられたそうです。お話を伺いながら、先生の研究熱心な姿勢が愛知県代表の座を獲得させたのではないかという気がしました。行き届いた目配りと研究熱心な姿勢が、これからも生徒たちの力を押し上げていくに違いありません。

前号で、西三河地区は学校間の対抗意識が強いとお聞きしたことがありますと書きました。この点については、特に駅伝において強く意識されているようです。岡崎市民駅伝に出場するために、都道府県対抗駅伝の代表候補になりながら辞退した（岡崎市民駅伝と都道府県対抗駅伝は同じ日に開催されています）女子選手も過去にはいたのだそうです。こうした気風の中で、今後も岩津中学校が活躍してってくれるだろうと思いつつ帰途につきました。

(取材文責：大西敏功 写真：櫻井一美)



笑顔のハイタッチ



マッサージ



アイシング

[県小学生リレー (瑞穂) 6.19]
6年ジャベリックボール投
51.00 堤陽菜 (東郷 AC)
[東海小学生 (瑞穂) 8.28]

上記以外については「2016年愛知陸協記録集」をご覧ください。
(石鎚 一則)

女性委員会

今回は、尾張陸上競技協会の女性委員会について報告します。尾張地区に女性委員会が発足して2年が過ぎようとしています。それは、ここ3年～4年ほどで陸上競技を専門とする女性審判員が増えてきたことに起因すると思われる。学校の教員は然り、学生時代競技に携わっていた選手が審判員として大会運営に関わってくれています。この事は大変頼もしく有難い限りです。また、尾張地区の記録会は、一般・高校・中小と同時開催で実施されており、他の地区より各団体との繋がりが自然にできているからだと思います。そして、毎年度末に尾張陸上競技協会の懇親会が開催されますが、この親睦会に女性審判員・女性顧問の方々に参加していただき交流を深めるよう努めています。

こうした観点から繋がりを広め、より多くの女性審判員がつどって競技会を盛り上げ、講習会なども開催していければ良いと考えています。尾張陸協の女性委員会の活動がより活発になるよう尽力していきたいと思っています。

(澤木三枝子)

年誌資料・広報委員会

広報発行11年目を迎えて

「愛知陸協広報」は平成18年1月1日をスタートに、この41号の発行で11年目を迎えることとなりました。協会の目的「愛知県の陸上競技の普及と振興、並びに競技力向上を図り…」を達成する一助となるよう活動してきました。皆さんからご意見を頂き、委員会で企画、原稿依頼、原稿収集、そして校正を重ねて発行・発送することができてきました。現在、各地区陸協の審判員や都道府県陸協、関係団体、マスコミ関係を含め全部で1200部を発行・送付しています。平成24年度からは年3回の発行となりましたが、今までの多くの方々の寄稿やご協力に改めて感謝申し上げます。そして今後も、より良い広報誌となるよう努力を重ねたいと思います。ご意見をお待ちしていますので、1ページ記載の陸協事務所広報委員会宛へお寄せください。

なお、陸協ホームページの「広報」の項目をご覧ください。過去のものを見ることができますので、是非「愛知陸上競技協会」で検索してみてください。

(新見 精三)

※競技会報告に、日本ジュニア・ユース選手権大会の第1日・第3日の記録を載せました。

各地区報告

名古屋地区陸上競技協会



瑞穂での陸上教室

トラックシーズンにおいて、名古屋地区の選手の活躍には目覚ましいものがありました。ここでは、駅伝、陸上教室等の報告をさせていただきます。

<県中学駅伝・全国中学駅伝>

県大会では男子の部で千種中(名古屋市)が初優勝し全国大会への出場権を得ました。区間賞は、大岩歩夢選手(東港)・服部凱杏選手(千種)が獲得しました。女子の部は千種中が4位に入賞し、阪井空選手(水無瀬)・三井咲選手(守山西)が区間賞を獲得しました。全国大会では、16位と上位入賞はなりませんでしたが、一区で服部凱杏選手が区間賞に輝きました。服部君は夏の全国大会で1500mを大会新で優勝し最優秀選手(文部科学大臣賞)に選ばれたのに続き、本大会でも最優秀選手に選ばれました。

<県高校駅伝>

男子の部は、2位愛知、3位中京大中京と健闘し、蝦夷森章太選手・山下和希選手(愛知)が区間賞に輝きました。女子の部は、千種が5位入賞に留まりましたが、若いチームであることから来年の活躍に期待します。

<愛知駅伝>

市の部は「勝って当然」と見られるプレッシャーの中、名古屋市が2連覇しました。町村の部は「打倒東浦」を合言葉に武豊町が初優勝し、2位東浦、3位東郷、4位阿久比、と名古屋地区が上位入賞を果たしました。また、区間賞は、服部凱杏選手(名古屋：千種中)・阪井空選手(瀬戸：水無瀬中)・池田昌雄選手(春日井：内外カーボンインキ)・山口浩勢選手(知多：愛三工業)・村上弓月選手(東郷：春木中)・江本悟司選手(東浦：三菱自動車工業)・澤田理紗選手(阿久比：英比小)・竹内麻里子選手(阿久比：小島プレス)・原田采奈選手(東浦：千種高)・柴田拓人選手(武豊：創価大)が獲得しました。

<陸上教室・ジュニア練習会>

陸上教室は、瑞穂・半田の2会場で各3回、延べ約4000名もの小・中・高校生及びその指導者が参加し、各ブロック別に基礎的・基本的な練習を中心に熱心な指導と参加者の意欲で、盛り上がりのある教室となりました。第1回の両会場に、ロンドンオリンピック代表の高橋萌木子さんを迎え、クリニックが行なわれました。選手やコーチらにとって、トップアスリートからの指導は、刺激的であると同時に意欲を高める大きな財産となりました。平行して名古屋市ジュニア練習会、地区小中学生強化練習会(12

～3月)も実施され、多くの参加者が意欲的にトレーニングに励みました。4月からの競技会で大きな成果を發揮してくれるものと期待します。

2020年東京オリンピック・パラリンピック、2026年アジア大会に名古屋地区の選手、指導者が参加し、活躍している姿を思い浮かべながら、報告とさせていただきます。
(小川真一郎)

尾張陸上競技協会

尾張陸上教室を12月17日(土)、1月7日(土)、2月4日(土)の3日間にわたって、県営一宮陸上競技場(いちい信金スポーツセンター)で開催しました。第3回は高校の学校行事等の関係で参加者が若干少なくなりましたが、第1回、2回は700名を越える参加者があり、例年がない参加者数となりました。そのために、陸上競技場だけでは十分な活動ができない状態になってしまいました。そこで、一部を多目的広場で実施し、指導者間の事前連携も図りました。事前の準備に手間をかけた分、充実した内容をこなすことができ、事故もなく無事終了することができました。特に今年度は、各種目においてトップクラスの現役選手をコーチとして招聘(しょうかい)することができました。円盤投の湯上 剛輝選手はその一例です。トップクラスの選手が基本動作の手本を示し参加者が体感する、そういった指導をはじめとして熱のこもった教室となりました。ここでのトレーニングが生かされ、参加者が4月からの競技会で大きな成果を上げてくれることを期待しております。来年度に向けては、年度当初より改善点について話し合い、よりよい実施方法を検討していきます。

大会としては、平成28年度を締めくくる最後の行事として、第64回尾張駅伝競走大会を1月15日(日)に県営一宮陸上競技場および周辺周回コースで実施しました。大会当日は今年最大の寒波に見舞われ、前日からの積雪が10cmで開催が危ぶまれました。しかし、審判員、補助員をはじめとする多くの方々のご尽力でコースを除雪し、スタート時間を1時間遅らすことで開催ができました。6部門に95チーム(オープンを含む)が健脚を競った結果は、下記のとおりです。

一般男子の部 (21km)	(一般男子の部Ⅱ部 =陸協登録者の部略)
1 ぬまちゃんずA 1.07.19	
2 ぬまちゃんずB 1.10.59	
3 愛知大学 1.11.14	
高校男子の部 (21km)	高校女子の部 (18.9km)
1 愛知黎明 B 1.07.02	1 愛知黎明 1.09.06
2 愛知黎明 A 1.07.13	2 西春 1.13.01
3 津島 1.09.16	3 一宮 1.13.57
中学男子の部 (14.7km)	中学女子の部 (14.7km)
1 宮田 A 49.00	1 犬山南部 A 56.33
2 犬山南部 A 49.13	2 古知野 A 56.37
3 大口 A 49.33	3 宮田 A 1.00.31

続いて今回も、尾張陸協の競技会運営の工夫を紹介します。と言っても、尾張陸協独自のものではありません。瑞穂競技場で行なわれているものを踏襲したものです。グラウンドが全天候型に改装されてから少しずつ参加者が増加

してきたうえに、選手を応援する家族等も増加してきました。そこで問題になってきたのが、来場者のマナーです。スタート時にスタンドの人たちの私語がやまず、選手の集中の妨げとなってしまっていました。尾張陸協では瑞穂競技場のやり方にならい、マーシャルの補助員を配置して問題の解消を図りました。スタート付近とゴール付近に1人ずつを配し(写真)、スタンドの皆さんに協力を呼びかけたのです。この2年間で体制として定着し、スタンドの皆さんの意識にも浸透してきたのか、メリハリのある競技会運営となっています。



選手とスタンドが一体に
(小島 末広)

西三河陸上競技協会



熱のこもった陸上教室

2016年度も、多くの審判員・補助員のご協力のおかげで、第4回陸上教室を以て無事終了することができました。今年度は前回の広報でも紹介したように、小・中・高・一般すべてのカテゴリーで全国大会の優勝者を出すという、西三河陸協の歴史上初の快挙を成し遂げました。最終の陸上教室(1/29)に先だって、西三河陸協規定の全国大会入賞者へその栄誉をたたえ表彰状とトロフィーを以下の選手に授与しました。

一般	高校男子	高校女子
棒高跳 鈴木 康太(岡崎城西→中京大)	走高跳 藤森俊秀(岡崎北)	走高跳 浅井さくら(岡崎城西)
100mH 小林紗矢香(安城学園→愛教大)	砲丸投 白藤聖陽(安城学園)	100mH 古橋佳奈(安城学園)
走高跳 水谷 来(岡崎城西→中京大)	中学男子	中学女子
棒高跳 高田 凌(岡崎城西→中京大)	800m 馬場勇一郎(上郷)	4×100mR 甲山
400mH 松本 扶弥(岡崎城西→中京大)		(鳥居芽生・永井絵理香・田中海米・谷口琴音)
		100m 高須鮎香(城北)

小学生	岡崎 JAC
4×100mR	(藤田鈴奈・土居幸愛・藤江美空・北田野々花)

入賞者の今後の活躍はもちろん、受賞の様子を見た選手の刺激にもなったと思います。来年度へ向かって心新たに更なる挑戦をしてくれると期待しています。また、陸上教室には2日間とも岡山市より3名の先生が視察に見えました。西三河陸上教室のコーチ・アシスタントの熱意や指導レベルの高さ、参加者の多さに感動して帰られました。

また、今年度は西三河から栄章受賞者が多く出ました。まず鶴田政之氏が瑞宝双光章の勲章を受章され、櫻井一美氏が岩手国体の会場にて秩父宮章を受賞されました。また村上脩一氏、澤辺泉二氏が東海陸協賞受賞と多数重なり、その披露も兼ねて11月に西三河陸協の懇親会を盛大に開催しました。

来年度より3年間の予定で、岡崎競技場（元県営）が改修工事に入りますので、特に刈谷・豊田競技場に大会が集中して大変ご迷惑をかけますが、よろしくお願ひします。

(柴田 和秀)

東三河陸上競技協会

今年度は、日本選手権の愛知開催やリオ・オリンピックなどがあり、例年以上に充実した1年でした。そんな1年を振り返って今年も私の独断で、東三河陸上競技協会の10大ニュースを作ってみました。

☆第1位 鈴木亜由子選手と関根花観選手がリオ・オリンピックに出場

6月に瑞穂で行われた日本選手権の10000mで、オリンピック派遣設定記録を突破してワンツー・フィニッシュした日本郵政グループの鈴木亜由子選手と関根花観選手がリオ・オリンピック出場を果たしました。鈴木選手は言わずと知れた豊橋生まれ豊橋育ちの選手で、関根選手は豊川高校出身です。

☆第2位 箱根駅伝三連覇の青山学院大で東三河出身の3選手が活躍

花の2区を3年連続区間3位で走った一色恭志選手、6区山下りを2年連続区間2位で走った小野田勇次選手、2年ぶり2回目の10区で優勝のゴールテープを切ったキャプテンの安藤悠哉選手の3人です。一色選手と小野田選手は豊川高校、安藤選手は豊川工業高校の出身です。

☆第3位 高校総体で東三河の高校生大活躍

7月29日～8月2日に、岡山で行われた全国高校総合体育大会では、小久保友裕選手（桜丘）が男子400mで優勝、東直美選手（豊橋南）が女子100mで5位、柴田一瞬選手（豊川）が男子八種競技で7位、中沢悠哉選手（同）が男子100mで8位に入賞しました。

☆第4位 トヨタ自動車惜しくも全日本実業団駅伝三連覇を逃し2位

トヨタ自動車は、エース格の窪田忍選手を故障で欠いたこともあり、3区のキャプテン大石港と選手の20人抜き快走はあったものの、村山兄弟、市田兄弟が快走した旭化成の後塵を拝し、三連覇を阻まれました。

☆第5位 全国大会で羽ばたく東三河の小学生

8月20日に神奈川で行われた全国小学生陸上交流大会では、菅沼瑠璃選手（田原陸上ク）が女子走幅跳で優勝、田中瑛一選手（同）が男子走幅跳で2位に入賞しました。

☆第6位 鈴木亜由子選手と関根花観選手の日本郵政グループが全日本実業団女子駅伝初優勝

☆第7位 豊川高校が全国高校駅伝にアベック出場し、女子が7位入賞

☆第8位 石場 治先生（豊橋中部中）が中学優秀指導者章受章

☆第9位 ジュニアオリンピック競技大会で、吉居駿恭選手（田原東部中）が男子C1500mで4位、藤井裕也選手（南陽中）が男子200mで8位入賞

☆第10位 愛知県小学生長距離走記録会で、豊橋陸上クAが優勝、蒲郡クAが2位、田原陸上クAが3位と東三河勢が上位を独占

今年は、日本選手権での鈴木選手や関根選手の活躍に刺激され、東三河全体が盛り上がりました。来シーズンも各世代で高い目標をもった選手たちの活躍を期待しています。
(兵藤 重二)

関係団体報告

小学生友の会

平成28年12月11日（日）万博記念公園特設コース（大阪）で、日清食品カップ第19回全国小学生クロスカントリーリレー研修大会が行なわれました。愛知県からは、豊橋陸上クラブが大会に参加しました。前日には日清食品グループ陸上長距離部の講演やインスタントラーメン発明記念館見学など、盛りだくさんの内容でした。

大会当日は、選手は自分の力を精一杯出し、それを指導者が熱心に支えていました。結果は32分31秒で21位でしたが、愛知県代表として高い意識で大会に参加することができました。大会を通して、記録や大会に臨む姿勢、考え方など子どもたち個々の成長を強く感じることができました。愛知県の陸上界をけん引していく力となってほしいと思います。

2020年の東京オリンピックに向けて、将来のオリンピックを目指し、活躍できる選手の発掘・強化を行なっていきます。また、陸上競技人口の裾野拡大のための普及活動も行なっていきたいと考えています。

順位	チーム名					成績
21	豊橋陸上クラブ					32.31
1区	2区	3区	4区	5区	6区	
5.31	5.00	5.50	5.14	5.36	5.20	
大場琴華	夏目拓	小原すずか	植村龍一	小酒井結葉	竹内翔	



いざ出陣



風を感じて

(佐々木博幸)

中小体連

今シーズンを終えて

県中学駅伝 (11/19: 半田)

本年度最後の主催事業となる県中学駅伝は、男子は名古屋市立千種中学校、女子は岡崎市立岩津中学校が優勝を飾りました。県中学駅伝の開催にあたっては、知多支部の関係各位にこの2年間絶大なるご支援とご協力をいただきました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

全国中学校駅伝大会は滋賀県の希望ヶ丘文化公園で行なわれました。千種中16位(名古屋市立の出場は男女を通じて初めてのことで)、岩津中15位と男女とも昨年の代表校を上回る結果でした。両チームともに愛知県の代表としてよく頑張ってくれたと思います。

平成29年度からは再び東三河支部(新城)での開催となります。支部の先生方を中心に、すでにさまざまな場面でお世話になっていますが、引き続きお力添えをいただきますよう、よろしくお礼申し上げます。

日本陸連 U16 東海・北信越ブロック研修合宿

(1/14・15: 静岡県・エコパ)

本事業は日本陸連より補助金をいただき、今年で4回目を迎えました。昨年度に引き続き、東海4県各40名に加え、北信越ブロック(新潟、長野、富山、石川、福井)5県各30名の310名が参加し、短距離・ハードル・走高跳・棒高跳・走幅跳・砲丸投の6ブロックに分かれて行ないま

した。

この合宿の特徴として、種目練習だけでなく、ミーティングの重視があげられます。中学生競技者としての心構えや、各種目の基礎理論、栄養指導などを学びながら進めています。

この合宿後、さまざまな場面で顧問の先生や参加した選手から「ヒントをつかみ、動きがよくなった」「練習日誌を書く習慣がついた」「校内の練習を引っ張っていけるようになった」といった内容の嬉しいお声も多くいただいています。

また、日々雪と戦いながら必死に競技力向上を目指す中学生の姿や、限られた環境の中で練習内容を工夫されている先生方と交流を深める中で、愛知県の現在の環境が非常に恵まれているということに再認識することができました。この合宿に参加した選手が、きたるシーズンで活躍することを期待しています。

なお、平成29年度の本事業は、東海ブロックのみで愛知県(1/6・7:パロマ瑞穂)での開催が予定されています。

今年度は東海中学総体の当番県でもあり、多くの先生方にお力を貸していただき、大会を無事終えることができました。改めてお礼申し上げます。

中小体連としては、引き続き「選手にとってよりよい環境づくり」に加え、「10年先を見据えた」活動をしていきたいと考えております。ご意見などがございましたら、各支部の陸上競技運動部員あるいは、丹羽智行(守山東中)

ホープさん ③④

服部 凱杏 選手 (千種中3年)

服部凱杏君は、小学校高学年から短距離と障害走を主に取り組んできました。

中学校で転機を迎えたのは、市総体の選手を決める時期でした。スポーツテストの持久走の時期と重なり、持久走の練習で半分の750mを走ったそのタイムがことのほか良かったのです。1年生ということもあり1500mにチャレンジしたのが中長距離との出会いでした。デビュー戦となった市総体では、4分39秒で周囲をびっくりさせたのを今でも覚えています。

その後の県通信、県総体を勝ち抜き、東海総体そして秋のジュニアオリンピックと階段を駆け上がるように全国で7位にまでなることができました。

2年生に入り、課題であったスピード練習に取り組み、800mを中心に1500mを磨いていきました。夏の全中では目標を達成すべく800mで決勝に進出を果たしました。その勢いで臨んだジュニアオリンピックは、緊張感からか思い通りの走りができず4'02"76で4位と、彼自身悔しさが残ったレースとなり、この失敗が彼を覚醒させました。2年生の秋冬から、自らは「全国制覇」を、仲間とは「全国中学校駅伝大会」出場を目標に、トレーニングで体幹を鍛え、スピード・スピード持久力アップを心がけ、3000mを封印し、800・1500mに集中して走り込みを重ね、しっかり準備してきました。

迎えた今年度は、春先から3000mでもジュニアオリンピック出場を決めたり、800・1500mで自己ベストを更新したり、上郷中・馬場勇一郎君とともに切磋琢磨しながら、全国の名だたる選手たちと闘ってきました。

結果は1500m(3'54"49)・3000m(8'25"64)の県中学新を樹立。全中では、800mは(1'54"79)の3位、1500mは(3'54"49)の大会新記録で優勝と最優秀選手賞を獲得。ジュニアオリンピック3000m(8'28"83)は2位と個人種目の目標を達成することができました。

駅伝でも、服部君効果で仲間の良い影響を与え、全国中学駅伝にも出場できました。この大会では、1区区間賞・最優秀選手賞を受賞しました。また都道府県駅伝でも愛知の3位に貢献できました。先日の千葉クロスカントリー中学校選手権の部優勝など、今年は服部君にとって輝かしい人生の1ページを飾りました。正に「やればできる」を体現しました。

今後も「自分の走りの完成」を目指し、高校から大学へと成長し、オリンピックを目指せる選手として、また人としても成長して欲しいと願っています。

(秋田 明憲)



全中で大活躍の
服部選手



永遠のライバル
馬場選手と共に

まで、お声をお聞かせください。(丹羽 智行)

高体連

平成28年度を振り返って

平成28年度は複数のインターハイチャンピオンが生まれました。男子3種目(400m、800m、走高跳)、女子1種目(走高跳)です。男子の全国制覇は久しぶりで、なおかつ複数であったのは昨年度の女子チャンピオン誕生の勢いを引き継ぐことができたからです。複数の優勝は久しぶりで、表彰式は大いに盛り上がりました。また女子の2つのリレー種目での2位、男子砲丸投でも2位と活躍してくれました。昨年度は総合も含めて久しぶりの活況を呈しましたが、今年度も継続できたと思います。また、全体の参加者も過去最高であった昨年度を超えました。ここ数年、全国大会への出場者は増加をしています。東海地区において愛知の存在はより一層大きなものになってきています。これからも継続できるように各方面とも協力をしていきたいと思っています。

高校駅伝は今年度は通常開催となり、愛知県からは男女とも豊川高校が出場しました。昨年度は愛知県勢としての連続入賞が途切れ、残念な年になりましたが、女子の豊川高校が7位に入賞し、昨年度の雪辱を果たしました。もちろん優勝を目標に大会に臨んでいるので満足はしていないことと思います。来年度の活躍を期待します。

平成29年度は山形県で全国総体が開催されます。多くの選手が東海地区を勝ち抜き、東北の地に愛知の名前を轟かせてほしいと思います。

平成30年度には東海地区に全国総体がきます。陸上競技は三重県になり、平成29年度の1年生が主力です。愛知県は中学生も全国大会で大いに活躍してくれました。高校生活にうまくつなげられるように頑張らなくてはならないと思います。

平成29年度が愛知県高体連にとって素晴らしい年になるように、頑張っていきたいと思っています。今後ともご協力をお願いいたします。(石井 哲郎)

高体連定通部

来シーズンへ向けて

2017シーズンの幕開けが近づいてきた。と言っても多くの定通の選手にとっては、6月の県定通総体が開幕戦であり、全国大会出場を賭けた大一番でもある。全ての選手の頑張りはもちろん、愛知県の主軸となる選手がどれくらい力を付けているか、そして新戦力の発見が今から楽しみである。例年、多くの選手は大会が間近に迫らないと練習に熱が入らないようであるが、冬が明けて暖かくなったこの時期からしっかりと準備をし、全国大会への出場をかけて熱戦を繰り広げてほしい。

全国的に見ても定通陸上における愛知のレベルは高い。その状況で「全国に行きたい」のであれば、口だけでなく日々の努力を継続し、まずは県を突破しなければならない。「全国で優勝・入賞する」ことを目標とするのであれば尚更のことである。定通の選手にとって「努力すること」「継続すること」の難しさは大きな課題である。しかし、生徒個々の特性を見極めて声をかけ、粘り強く指導をしてくださる先生方がたくさんいる。少しでも多くの選手

と指導者が共に夢や目標を追いかけられるような一年になることを期待している。

聞くところによると、東京都は全国大会での男女総合優勝をめざして、昨秋より月2回の合同練習を開催しているとのことである。愛知県もこの2年の好成績にあぐらをかいている場合ではないという気持ちである。なかなか足並みを揃えることは難しいが、高体連定通陸上としても新たな取り組みができるような一年にしていきたいと思う。各校顧問の先生方、陸協関係の皆様、来年度もお力添えのほどよろしく願いいたします。(野口 武則)

学連

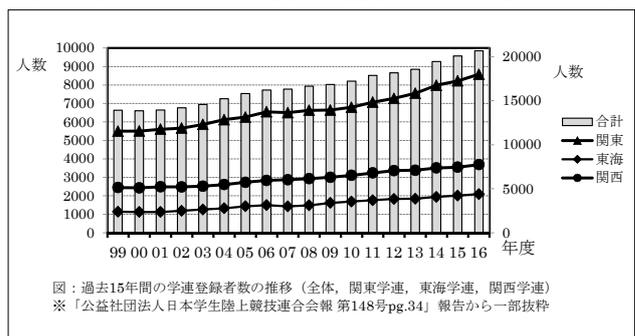
2016年度学生競技者の登録状況について

日本の人口が減少局面に入った2007年を機に社会経済をはじめとする様々な分野に影響が出ている。教育機関においては、学校の統廃合による部活動の縮小化や存続危機が課題となっている。どのスポーツ種目を選択するかの理由は様々であるが、数多くある種目の中から選ばれていた時代から、スポーツ自体を“する”か“しない”かの二極化現象にまで至っている。このような時代背景においては、学生スポーツ界にも影響がないわけではない。

昨年末に2016年度日本学生陸上競技連合から会員数が報告された(図)。ここでは、比較的大学数が多い東海、関東、関西の3地区の登録者数の推移について触れる。過去15年の登録者数の推移を見ると、東海学連は2006年から2007年にかけて一時期減っており、先にも触れた人口減少局面が理由として考えられる。しかし、それ以降は前年度よりも登録者数は右肩上がりの現象が確認できる。昨今の経済事情から首都圏の大学ではなく地元の大学に進む傾向も理由として挙げられるが、東海学連と同様に関東の登録者数も年々増加傾向になっているため、費用面を理由に進学先に変化が出ているとは言い切れない。各地区別の登録者数も多少の増減はあるが、学連全体で見るとその数は増加傾向になっており、過去2年間においては20,000人を超えている。子どもの母数自体が減少していることは事実であるので、少子化に伴う学校の統廃合やクラブの規模縮小などの課題が指摘されている中でも陸上競技の実施者数が増加していることが推測できる。

今回の登録者の内訳で不明だったのが、“種目転向組”の存在である。高校時代に陸上競技以外のスポーツをしていた者が大学進学後、陸上競技をはじめた人数についても明らかにすることは、タレント発掘にもつながると期待できる。

学生登録者数の年次推移は、単なる傾向ではなく、時代背景や数値の内訳を明らかにすることで陸上競技の普及や競技力向上にも関連する貴重な情報であると考えられる。



(黒須 雅弘)

実業団

今シーズンを終えて

2016年度の実業団での最大目標は、男子ではトヨタ自動車ニューイヤー駅伝での3連覇、女子では豊田自動織機の王座奪回ではありましたが、トヨタ自動車は惜しくも2位、豊田自動織機はタスキ渡しのミスで失格となり、全国統一予選からの再出発となりました。その中で男子の大石港与選手は、3区で20人抜きを達成し2位に貢献しました。また、10000mでも27分48秒56の記録(今季日本ランキング3位)を出し、今後に期待がかかります。



大石港与選手



女子の豊田自動織機の横江里沙選手も5000mで15分18秒11と、今季日本ランキング2位の記録を出した今後期待の22才です。

長距離以外の種目では、棒高跳の山本聖途選手(トヨタ自動車)、円盤投の湯上剛輝選手(トヨタ自動車)の自己記録更新にも期待がかかります。(中村 博之)

マスターズ陸上

心豊かな長寿社会への貢献役

平成28年度も終わろうとしています。愛知マスターズにおいても3月17日の総会、3月18日の全日本マスターズ駅伝競走大会を残すのみとなりました。

今年度を振り返れば、全日本マスターズ陸上選手権新潟大会で男子では、畠中一起選手(豊川市)がM55で60m・100m・200m・4×100mRの4種目、M45で小高孝二選手(豊田市)が60m・200m・4×100mR・4×400mRの4種目、女子ではW55で碓井由紀子選手(豊川市)が200m・400m・4×100mR・4×400mRの4種目、同じくW55で中山淳子選手(名古屋市)が800m・1500m・3000m・4×400mRの4種目で、W50で金子葉子選手(名古屋市)が200m・400m・4×100mR・4×400mRの4種目で金メダルを獲得する快挙でした。この5選手には特別優秀選手賞が贈られることになっています。



第37回全日本マスターズ陸上競技選手権大会・新潟大会
2016年9月17日(土)～19日(月・敬老の日) デンカビッグスワンスタジアム

活躍する畠中一起選手(豊川市)

3月19日に滋賀県野洲市の希望ヶ丘で行なわれる第29回全日本マスターズ駅伝競走大会については、男子は昨年2位となったメンバーで臨みますので、実力的には優勝候補の筆頭と思います。女子、エルダーについても上位入賞は期待できるかと思えます。次号でいい報告ができるのではないかと期待しています。

3月18日は、平成28年度の総会が開催されます。今回は役員の変更となります。第16期の役員として、愛知陸協稲垣隆司会長さんには名誉会長に就任していただきました。愛知陸協との連携を一層深めることにより、愛知マスターズにとって2018年度からの全日本マスターズ駅伝競走大会の開催や日頃の運営に対しご指導、ご支援をいただ

けることになり、愛知マスターズの発展に拍車がかかるのではないかと思います。

私が日本マスターズ連合の専務理事に就任して、9か月が経過しました。この間、9月の全日本マスターズ陸上競技選手権新潟大会、3月の通常理事会も無難に消化することができました。

その間、課題であったマスターズ会員の日本陸連への全員登録問題に取り組んできました。愛知は既に愛知陸協に全員登録していますが、全国的にはまだまだ未登録会員がいますので、2018年度に全会員登録をすることを目指しています。また、国際的な話としてマスターズ陸上におけるドーピング問題が課題となっています。いずれも日本陸連と協議したりご指導を頂きながら、マスターズ会員と日本の陸上界がいい方向にいけるような解決策を探っていきたく考えています。ご指導のほどよろしく願いいたします。(佐野 昭二：3月1日現在)

OB・OG会

OB・OG会の「新春懇親会」は、1月17日に三河湾を望む「グリーンホテル三ヶ根」で開催しました。高台のホテルから望む眺望と夕日は、日々の日常を一時忘れてしまうほどの絶景でした。今回の企画は西三河地区担当で、世話人さんのご尽力で25名の皆さんが集まり、二次会まで続く楽しい会となりました。世話人の皆さんには感謝申し上げます。

翌朝はホテルの天然温泉につかり、朝日が差し込む会場での朝食は、お代わりをされる方も多かったようです。食事も早々に職場に向かわれる参加者もありましたが、ホテルの車でJR蒲郡駅まで送っていただき、解散となりました。

次回は尾張地区世話人のお世話で同地区での開催となる予定です。会員の皆さんの参加をお待ちします。



親睦が深まった笑顔の会員

(水野 久)

競技会報告

第32回日本ジュニア陸上競技選手権大会
第10回日本ユース陸上競技選手権大会2016年10月21日(金)・23日(日)
パロマ瑞穂スタジアム 本県8位入賞のみ

男子ジュニア

種目	順位	氏名	学校名	記録
400m	5	小久保友裕	桜丘高	47.93
走高跳	1	水谷 来	中京大	2.20

女子ジュニア

種目	順位	氏名	学校名	記録
400m	7	松本 扶弥	愛知教育大	56.64
100mH	6	古橋 佳奈	安城学園高	14.01
棒高跳	8	高田 彩佳	岡崎城西高	3.65
やり投	7	石本 瞳	名古屋大谷高	45.85

男子ユース

種目	順位	氏名	学校名	記録
400mH	7	伊奈 颯太	豊川高	55.55
走幅跳	7	中野 裕仁	名城大附高	7.27

女子ユース

種目	順位	氏名	学校名	記録
400m	4	磯部 まみ	至学館高	55.96
4×100mR	2	天神 綾音	中京大中京高	46.54
		久野 なつ		
		澤井 萌奈		
		長谷川愛樹		
棒高跳	4	水上 真里	岡崎城西高	3.50
走幅跳	3	澤井 萌奈	中京大中京高	5.96
円盤投	5	小原 桃華	名古屋大谷高	40.58
やり投	7	近藤 沙南	安城学園高	46.87

第65回愛知県中学校駅伝大会

2016年11月19日(土) 半田運動公園陸上競技場

男子成績

1	千種	54.26		
(山田将貴・佐藤春輝・野澤佑太・志村健太・三芳 源・服部凱杏)				
2	田原東部	55.17	6	宮田 56.21
3	岡崎北	55.54	7	富士 56.24
4	豊川東部	55.59	8	竜海 56.27
5	岩津	56.07		

区間賞	1区	大岩 歩夢(東港)	9.30
	2区	小林 亮太(竜海)	8.44
	3区	吉居 駿恭(田原東部)	8.41
	4区	杉浦 樹(六ツ美)	8.51
	5区	長坂 知(矢作)	9.03
	6区	服部 凱杏(千種)	8.21

女子成績

1	岩津	43.23		
(池田花菜・木村 栞・森下咲良里・小原蘭菜・浅野智尋)				
2	古知野	43.32	6	横須賀 43.55
3	宮田	43.45	7	高師台 44.05
4	千種	43.45	8	甲山 44.08
5	一宮中部	43.54		

区間賞	1区	阪井 空(水無瀬)	10.28
	2区	木村 栞(岩津)	7.19
	3区	坂川 恋露(一宮中部)	7.19
	4区	三井 咲(守山西)	7.23
	5区	浅野 智尋(岩津)	9.42

第56回中部実業団対抗駅伝

2016年11月20日(日)

コース:道の駅伊良湖港~はなとき通り 7区間83.5km

成績(本県分のみ)

1	トヨタ自動車A	4.06.00	大会新
(大石港与・ヒラム ガディア・田中秀幸・服部勇馬・早川 翼・宮脇千博・松本 稜)			
3	トヨタ紡織	4.12.24	6 トーエネック 4.14.33
4	愛知製鋼	4.12.30	7 中央発條 4.15.22
5	愛三工業	4.13.40	Op トヨタ自動車B 4.11.03

区間賞	1区	大石港与(トヨタ自動車A)	36.36	区間新
	3区	田中秀幸(トヨタ自動車A)	33.18	
	4区	服部勇馬(トヨタ自動車A)	50.32	
	5区	早川 翼(トヨタ自動車A)	37.18	区間新
	6区	宮脇千博(トヨタ自動車A)	26.50	
	7区	松本 稜(トヨタ自動車A)	39.20	区間新

トピックス

遅咲きのヒロイン誕生

最近、マラソンの距離を超えるウルトラマラソンや山岳地帯を走るトレイルランが静かなブームになっています。そのウルトラマラソンに、この愛知からヒロインが誕生しました。名古屋市在住の兼松藍子さん(Run up所属:36)です。(写真提供:中日新聞社)



兼松さん

兼松さんは11月27日にスペインであった100キロマラソンの世界選手権

大会に、日本代表として初めて出場しました。記録は7時間47分41秒で個人の部で6位に入賞。さらに上位3人の合計タイムで競う団体戦では、金メダルを獲得しました。

また、愛知には男子の日本代表高田由基選手もいます。今回も団体銀メダルでした。ちなみに、2人とも今年は100キロマラソンの県記録を更新しています。

ウルトラマラソンが、これからこの愛知で、静かな広がりを見せるのではないのでしょうか。

第11回愛知県市町村対抗駅伝競走大会

2016年12月3日(土) 愛・地球博記念公園 9区間28.7km

順位	市の部		町村の部	
1	名古屋	1.31.41	武豊	1.35.24
2	豊橋	1.32.10	東浦	1.36.13
3	豊田	1.32.11	東郷	1.36.55
4	岡崎	1.32.15	阿久比	1.37.29
5	田原	1.32.52	蟹江	1.40.20
6	知多	1.33.24	大口	1.40.25
7	一宮	1.33.36	美浜	1.41.46
8	江南	1.33.54	幸田	1.42.35
9	豊川	1.34.42	豊山	1.44.27
10	刈谷	1.35.03	設楽	1.44.53

区間賞 (○数字は区間を示す)

市の部

- ①阪井 空(瀬戸)
 ②野村 翼(安城)
 ③池田 昌雄(春日井)
 ④増田 吏紗(安城)
 ⑤服部 凱杏(名古屋)
 ⑥松井 寛翔(豊田)
 ⑦山本 彩乃(一宮)
 ⑧鈴木 純菜(岡崎)
 ⑨山口 浩勢(知多)

町村の部

- ①村上 弓月(東郷)
 ②梶川 由稀(蟹江)
 ③江本 悟司(東浦)
 ④澤田 理紗(阿久比)
 ⑤古田 拳也(大口)
 ⑥熊谷 碧人(幸田)
 ⑦竹内麻里子(阿久比)
 ⑧原田 采奈(東浦)
 ⑨柴田 拓人(武豊)

モリコロ賞

市の部

順位	チーム	昨年度順位	今年度順位	上昇順位	タイム
1	半田	31	21	10	1.38.45
	岩倉	33	23	10	1.39.02
3	一宮	16	7	9	1.33.36
	弥富	35	26	9	1.39.20

町村の部

順位	チーム	昨年度順位	今年度順位	上昇順位	タイム
1	美浜	9	7	2	1.41.46
2	武豊	2	1	1	1.35.24
	豊山	10	9	1	1.44.27
	飛鳥	13	12	1	1.45.49
	南知多	15	14	1	1.53.02

第78回東海学生駅伝対校選手権大会

2016年12月4日(日) コース: 知多半島一周 7区間63.5km

男子成績 (本県分のみ)

2	名大	3.20.33	7	至学館大	3.29.24
3	愛工大	3.21.17	8	愛教大	3.30.00
6	東海学大	3.28.07			

区間賞 5区 國司寛人(名大) 33.01

第10回東海学生女子駅伝対校選手権大会

2016年12月4日(日) コース: 知多半島半周 5区間26.6km

女子成績 (本県分のみ)

1	名城大	1.28.34			
(徳永香子・青木和・名倉華子・松浦佳南・赤坂よもぎ)					
2	愛教大	1.34.21	5	名古屋大	1.38.24
3	東海学大	1.37.55			

区間賞	1区	徳永香子(名城大)	11.24
	2区	青木和(名城大)	13.40
	3区	名倉華子(名城大)	19.35
	4区	松浦佳南(名城大)	16.14
	5区	赤坂よもぎ(名城大)	27.41

2016年駅伝カーニバル

2016年12月11日(日) 愛・地球博記念公園 3km周回コース

成績

男子一般 (5区間21km)

1	名古屋大	1.07.03			
(福田拓弥・浮津照也・伊藤無限・柴田雄斗・西尾文吾)					
2	東海学園大	1.08.16	4	南山大	1.13.45
3	愛知大	1.12.44			

区間賞	1区	円尾翔吾(東海学園大)	18.54
	2区	重田真稔(東海学園大)	19.11
	3区	伊藤無限(名古屋大)	9.29
	4区	島田拓弥(東海学園大)	9.24
	5区	西尾文吾(名古屋大)	9.11

男子高校 (5区間21km)

1	豊橋工	1.08.49			
(内木亮吾・河合拓巳・山本麗於・松下公紀・小柳津龍太)					
2	名経大高蔵	1.10.06	5	津島	1.11.31
3	豊橋南	1.10.09	6	一宮西	1.11.54
4	豊明	1.11.18			

区間賞	1区	内木亮吾(豊橋工)	19.01
	2区	河合拓巳(豊橋工)	19.05
	3区	竹内嘉希(名経大高蔵)	9.48
	4区	松下公紀(豊橋工)	9.34
	5区	高橋登也(名経大高蔵)	9.20

女子一般高校 (4区間15km)

1	岡崎北高A	57.50			
(黒瀬美凧・林実奈樹・夏目紗希・今泉柚香)					
2	東海学園大A	58.21	5	東海学園大B	1.00.08
3	豊橋南高	59.10	6	愛知淑徳大	1.00.15
4	名古屋市立大	59.32			

区間賞	1区	山中聖菜(椋山女学園大学)	22.35
	2区	林実奈樹(岡崎北高A)	11.10
	3区	夏目紗希(岡崎北高A)	11.42
	4区	杉本有希奈(東海学園大学A)	11.22

男子中学 (4区間 12km)

1 竜海 A	39.32		
(鈴木仁都・池田裕幸・小川翔英・小林亮太)			
2 六ツ美 A	40.10	5 新香山 A	40.31
3 翔南 A	40.18	6 岡崎北 B	40.36
4 矢作 A	40.30		

区間賞 1区	後藤謙昌 (翔南 A)	9.33
2区	片山宗哉 (城北 A)	9.43
	浅香 光 (新香山 A)	〃
3区	杉浦 樹 (六ツ美 A)	9.39
4区	小林亮太 (竜海 A)	9.37

女子中学 (4区間 12km)

1 矢作 A	45.01		
(福井 藍・杉浦花音・磯部早良・純浦美桜)			
2 SQUAD TAKUYA	45.50	5 矢作北 A	46.21
3 竜海 A	46.07	6 AC一宮	46.26
4 矢作 B	46.16		

区間賞 1区	鈴木恵美 (竜海 A)	10.51
2区	杉浦花音 (矢作 A)	10.49
3区	小林未来 (SQUAD TAKUYA)	11.28
4区	純浦美桜 (矢作 A)	11.09

第24回全国中学校駅伝大会

2016年12月18日(日)
 希望が丘文化公園スポーツゾーン特設コース
 男子の部(6区間 18km) 女子の部(5区間 12km)

男子成績(本県分のみ)

第16位	千種 58.43
(服部凱杏・野澤佑太・佐藤春輝・志村健太・三芳 源・山田将貴)	
区間賞 1区	服部 凱杏 8.59

女子成績(本県分のみ)

第15位	岩津 43.10
(浅野智尋・木村 栞・森下咲良里・村松七海・小原蘭菜)	

第36回全日本実業団対抗女子駅伝

2016年11月27日(日)
 松島町文化観光交流館前～仙台市陸上競技場(宮城コース)
 (6区間 42.195km)

成績(本県分のみ)

失格 豊田自動織機

第28回全国高校駅伝(女子)

2016年12月25日(日)
 西京極運動公園陸上競技場 5区間 21.0975km

成績(本県分のみ)

7位	豊川 1.09.07
(加瀬 花・浅田遥香・松井優実・荻野実夕・猿見田裕香)	

第67回全国高校駅伝(男子)

2016年12月25日(日)
 西京極運動公園陸上競技場 7区間 42.195km

成績(本県分のみ)

27位	豊川 2.09.12
(関口雄大・岩城亮介・ニコラス キプリモ・永田一輝・山本起弘・山本昂佑・深澤空良)	

第48回元旦競歩・長距離競技会

平成29年1月1日(日) パロマ瑞穂スタジアム・付設長距離競歩路

成績(太字は愛知登録)

一般男子 20km 競歩

1	尾崎 雄大 (トヨタ自動車)	1.58.36
2	今川 智博 (愛教大ク名)	2.06.03

一般男子 10km 競歩

1	古部 大地 (名城大)	51.29
2	吉岡 敬修 (新潟大)	54.24
3	吉田 盛一 (県北陸協)	1.00.13

高校男子 10km 競歩

1	岩川 祐介 (浜北西)	47.52
2	山田 将也 (明和)	47.55
3	田口 隼也 (市岐阜商業高)	48.09

一般女子 20km 競歩

1	五藤 怜奈 (中部学院大)	1.37.58
2	中野 恵 (中部学院大)	2.08.23

一般女子 10km 競歩

1	伊奈 佑真 (中部学院大)	1.05.41
2	増岡美由紀 (奈良陸協)	1.05.50

高校女子 5km 競歩

1	三反田ありさ (済美)	27.27
2	川部寿々実 (済美)	28.04
3	鈴木 紫陽 (豊橋東)	28.19

男子 10000m

1	島澤 誉寛 (ぬまちゃんず)	32.14.21
2	伊藤 優汰 (至学館大)	33.09.23
3	永山 周輝 (近畿大)	34.00.88

高校男子 10000m

1	原田 翼 (豊明)	33.25.67
2	榊原 大和 (愛産大三河)	33.26.61
3	佐藤 匡 (愛産大三河)	33.27.37

男子中学 3000m

1	小林 優心 (大曾根)	9.24.81
2	浅井 大登 (愛知陸協)	9.32.32
3	松本 結叶 (尾西第二)	9.37.70

女子 10000m

1	中山 淳子 (愛教大ク名)	41.38.92
---	---------------	----------

高校女子 10000m	2 布藤 希海 (吉田方)	18.35.59	
1 水野 花 (済美)	39.56.29		
2 江村 彩 (済美)	40.04.25	中学女子 3000m 競歩	
3 堀 明日香 (済美)	40.13.50	1 松井 捺音 (吉田方中)	22.23.70

女子中学 3000m	一般・高校男子 5000m 競歩		
1 田中梨咲子 (愛教大附属岡崎)	11.32.10	1 鈴木 智大 (明和高)	20.44.42
2 山口奈緒子 (吉田方)	11.40.23	2 大嶋 悠斗 (中京大)	21.30.07
		3 小林 貴太 (丹羽高)	21.41.24

第61回全日本実業団駅伝

2017年1月1日(日)群馬県庁発着 7区間 100.0km

成績(本県分のみ)

第2位	トヨタ自動車	4.51.02
第13位	愛知製鋼	4.55.34
第16位	愛三工業	4.56.10
第19位	トヨタ紡織	4.57.41
第30位	中央発條	5.02.23
第34位	トーエネック	5.04.00

区間賞 3区 大石港与(トヨタ自動車A) 37.57

一般・高校女子 5000m 競歩	
1 園田世玲奈 (中京大)	23.36.03
2 深水 梨保 (至学館大)	25.03.24
3 堀部 華瑚 (済美高)	25.51.03

一般・高校男子 10000m 競歩	
1 岡田 健太 (至学館大)	45.34.09
2 和田 卓也 (至学館大)	45.58.37
3 割田 圭祐 (静岡大学)	46.07.13

一般・高校女子 10000m 競歩	
1 五藤 怜奈 (中部学院大)	48.13.99
2 和田 菜摘 (至学館大)	51.29.63
3 中野 恵 (中部学院大)	53.20.99

第6回愛知競歩競技会

2017年2月25日(土)パロマ瑞穂北陸上競技場

成績(太字は愛知登録)

中学男子 3000m 競歩

1 松本 直樹 (なごや陸上ク)	15.18.25
------------------	----------

陸上競技場めぐり⑩

白谷海浜公園陸上競技場

白谷(しろや)海浜公園陸上競技場は平成11年から工事が始まり、2年半後の平成13年9月1日から使用開始となった全天候舗装400m8レーンの公認4種競技場です。場所は豊鉄渥美線三河田原駅の北西約6kmにある三河湾白谷海岸の埋め立て地です。

オープン当時は競技場の周りには何もなく、特に冬は海からの風が非常に強く、活動するのに大変でした。しかし今は海側に防風林としての松が成長し風が和らぎました。ホームストレート側には衣笠山、第2～4コーナーの外側には防風林、フィールド内とホームストレートを除く8レーン外側300mは天然芝と緑に囲まれた陸上競技の練習会場としては最適な競技場となりました。

この競技場は田原市の陸上競技協会とサッカー協会の2つの団体が主に使用します。土曜日の午前中は陸上競技、午後はサッカー(日曜日は逆)が活動します。使用できる時間は照明設備がないため夏季(4～9月)は午前8時から午後7時まで、冬季(10～3月)は午前8時から午後5時までとなっています。陸上競技では投てき種目に制限があり、円盤投とハンマー投は禁止となっています。

土曜日の午前中には、田原陸上クラブの1年から6年までの小学生と地元の中학생および高校生の陸上競技部員ら300人を超える児童・生徒が同時に練習をします。トラック内は種目ごとにレーンを割り振り、フィールド内は各団体が話し合いながら、けがや事故がないように活動しています。また、この競技場はニューイヤー駅伝等で活躍しているトヨタ自動車長距離部の練習場所でもあります。同じ所で練習している児童・生徒は、一流選手の走りを近くで見ることができるので大いに励みになっています。

平成29年4月からは念願だった写真判定装置が使用可能となります。今までは未公認の市内陸上競技大会や簡易写真判定装置で小学生の記録会を行ってきました。今後は小学生・中学生を中心とした公認の大会やこの競技場でできる記録会を積極的に誘致していきたいと思っています。



白谷4種(写真判定装置新導入)

(伊藤 朝一)

第39回読売犬山ハーフマラソン

2017年2月26日(日) 公認犬山ハーフマラソンコース

(写真提供：読売新聞社)



1位でゴールする鈴木選手(愛知電機) 犬山城のふもとを力走



2月26日に内田防災公園(旧名証グラウンド)をスタート・フィニッシュとして行なわれた第39回読売犬山ハーフマラソン大会は、晴天のもと14の部門に9,125人が参加し8,507名が完走しました。公認ハーフマラソン男子の部では、伊勢翔吾選手(駒澤大学)が1時間03分58秒で、女子の部は鈴木翔子選手(愛知電機)が1時間13分24秒で優勝しました。

大会成績結果(太字は愛知登録)

登録ハーフ男子

1	伊勢 翔吾(駒澤大学)	1.03.58
2	小島 大明(中央発條)	1.04.09
3	鈴木 柁成(中央発條)	1.04.36
4	湯田 晟旭(トーエネック)	1.04.58
5	塩谷 潤一(御殿場 滝ヶ原自衛隊)	1.04.59
6	彦坂 要(愛知製鋼)	1.05.15

登録ハーフ女子

1	鈴木 翔子(愛知電機)	1.13.24
2	浅野 里奈(愛知電機)	1.16.16
3	杉浦穂乃加(中京大学)	1.16.48
4	久保百合香(中京大学)	1.19.23
5	高谷 静香(愛知電機)	1.21.08
6	権田 結希(中京大学)	1.21.13

登録10km男子

1	小澤 洸太(トーエネック)	30.05
2	内藤 圭太(愛知製鋼)	30.43
3	石井 健太(おもちゃ箱イカロス)	30.44
4	山口 真弘(小島プレス)	30.50
5	高久 貴智(静岡陸協)	30.58
6	山下 慧士(皇學館大学)	31.11

登録10km女子

1	鈴木 瑞季(名城大学)	34.17
2	塩崎 葵(名城大学)	34.31
3	松浦 佳南(名城大学)	34.42
4	名倉 華子(名城大学)	34.56
5	黒川ももか(名城大学)	35.19
6	鈴木 智子(名城大学)	35.38

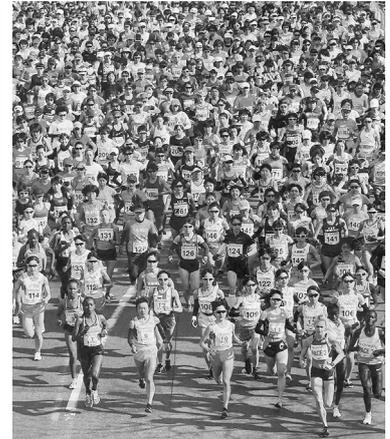
名古屋ウィメンズマラソン

2017年3月12日(日) ナゴヤドーム発着

(写真提供：中日新聞社)



激走する安藤選手



今年もギネス更新

開催6年目となった女子だけのマラソンが行なわれました。19857人が出走し今年もギネス更新となり、ロンドン世界選手権大会出場をかけて熱戦が繰り広げられました。



日本人国内最高記録

天候にも恵まれ、初マラソン日本最高(歴代4位：国内日本人最高)で準優勝した安藤友香選手(スズキ浜松AC)と自己新記録で3位となった清田真央選手(スズキ浜松AC)の2人ともに世界選手権出場が決定しました。ホイールチェアマラソン(クォーター)、マラソンフェスティバルのハーフ・クォーターも同時開催され、充実した大会となりました。関係者の皆様に感謝いたします。

ウィメンズマラソン(エリート部)

1	ユニスジェブキルイ・キルワ(バーレーン)	2.21.17 GR
2	安藤 友香(スズキ浜松AC)	2.21.36 GR
3	清田 真央(スズキ浜松AC)	2.23.47
4	桑原 彩(積水化学)	2.26.09
5	石井 寿美(ヤマダ電機)	2.27.35
6	下門 美春(しまむら)	2.27.54
7	吉田 香織(TEAM R×L)	2.28.24
8	宇都宮亜依(宮崎銀行)	2.28.52

ホイールチェアマラソン(クォーター)

1	中山 和美	25.21
2	喜納 翼	25.27
3	安川祐里香	28.15

愛知選手権女子マラソン

2017年3月12日(日) ナゴヤドーム発着

1	中村 瑠花(小島プレス)	2.40.54
2	河村奈津紀(トヨタSC)	2.49.10
3	富田 光江(あいち健康の森走遊会)	2.50.45
4	中村麻季子(FINDOUT)	2.54.33
5	堀川はる菜(愛知電機)	2.54.52
6	北郷 菜実(安城快足AC)	2.55.32

名古屋シティマラソン 2017年3月12日(日) ナゴヤドーム発

ハーフ男子	1	Brad Milosevic	1.04.53
	2	井村 光孝	1.06.08
	3	風見 尚	1.08.14
クォーター男子	1	辰巳 慶宏	32.52
	2	山内 康平	33.50
	3	北村 匠	34.02
ハーフ女子	1	Lexy Gilmour	1.16.53
	2	大久保絵里	1.22.24
	3	岡 奈津美	1.22.54
クォーター女子	1	成瀬 優	38.45
	2	岩下 淑	42.53
	3	中島えりか	45.12

理事会等会議報告

○12月理事会 28年12月8日(木) 18:00 教育会館

1 協議事項

- ①全国都道府県対抗女子駅伝・男子駅伝の選手選考について
- ②各種栄章候補者について
- ③愛知県体育協会被表彰者について
- ④審判員昇格候補者について
- ⑤平成29年度競技会等の日程(案)について
- ⑥その他

2 報告事項

- ①各種大会結果報告
- ②陸連関係会議
 - ・全国区域技術役員会議
 - ・全国強化責任者会議
 - ・全国普及育成担当者会議
- ③各専門委員会報告
- ④その他

○1月理事会 29年1月27日(金) 18:00 教育会館

1 協議事項

- ①平成29・30年度一般財団法人愛知陸上競技協会役員について
- ②平成29・30年度東海陸上競技協会派遣役員について
- ③2020年東京オリンピック審判員愛知陸協派遣について
- ④平成29年度年間競技日程について
- ⑤その他

2 報告事項

- ①都道府県対抗駅伝結果について
- ②マラソンフェスティバルについて
- ③読売犬山ハーフマラソンについて
- ④各専門委員会報告
- ⑤各関係団体からの報告
- ⑥その他

○2月理事会 29年2月20日(月) 18:00 教育会館

1 協議事項

- ①平成29・30年度一般財団法人愛知陸上競技協会役員について

②平成29年度年間競技日程について

③その他

2 報告事項

- ①各専門委員会報告
- ②各関係団体からの報告
- ③その他

(水野 隆夫)

栄章

おめでとうございます

平成28年度愛知県体育協会表彰

日時 平成29年3月21日(火) 午後3時30分

場所 ウィルあいち(愛知県女性総合センター)

・功労賞

近藤 修一 永田 敏也

・優秀選手賞

(オリンピック出場)

山本 聖途

(国際競技会優秀成績)

向井 智香 佐藤 圭太 芦田 創

山本萌恵子 蒔田紗弥香

(国民体育大会優勝)

長田 拓也 中野 裕仁 森 皓平

高橋 周治 中沢 悠哉

(日本選手権大会等優勝)

鈴木 康太 小林紗矢香 小久保友裕

浅井さくら 山田 翔雅 藤森 俊秀

馬場勇一郎 服部 凱杏 菅沼 瑠璃

藤井 鈴奈 土居 幸愛 藤江 美空

北田野々花

(水野 隆夫)

お く や み

長年本県の陸上競技の発展のため、多大なるご尽力をいただきましてありがとうございました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(敬称略)

逝去者氏名 逝去年月 支部名

北村 晴雄 29・1 西三河

編集後記

◇初マラソンで銀メダリストと互角に戦った安藤選手のすばらしい走りが、観戦した人々に鮮烈な印象を残した。愛知ゆかりの2選手の世界陸上出場は、名古屋ウィメンズマラソンの大きな成果だ。◇新しい年度も、アスリートファーストの精神で競技会運営に臨みたい。東京オリンピック・アジア大会等めざして。◇寄稿に深謝。

編集委員

大西 敏功 小坂 拓 鈴木人呂信 竹前 正直
茶谷 和彦 新見 精三 野口 一昭 山下ゆかり
横田小百合